
目次

- [01] O F I Xからのお知らせ
 - 教育機関留学生担当者防災ワークショップ参加者募集
- [02] 事業報告
 - 堺市国際ボランティア通訳研修開催
 - 国際理解教育：枚方市立中宮小学校を訪問
- [03] 留学生特集
 - 外国人留学生を取り巻く環境の変化について
- [04] 投稿コーナー
 - 多文化の国トルコ
- [05] 新人紹介
 - はじめまして
- [06] 大阪府外国人情報コーナー
 - 相談員ネットワーク会議
- [07] O F I X国際交流員レポート
 - フィリピンの文化祭

[01] O F I Xからのお知らせ

■ 教育機関留学生担当者防災ワークショップ参加者募集

南海トラフの巨大地震の発生が危惧されている現在、東日本大震災時に留学生支援に奔走された大学関係者の方から、直接その体験談や苦労話をお聞きし、府内の留学生支援体制の現状と課題について意見交換を行うワークショップを次のとおり開催します。

日 時：平成25年11月27日（水） 午後2時から4時30分
講 義：東日本大震災から学ぶ留学生支援
-危機管理と支援の充実化に向けて-
講 師：国立大学法人 東北大学 国際交流センター
教授 末松 和子 氏
会 場：マイドームおおさか 8階 第6会議室

詳細はこちら：<http://www.ofix.or.jp/news.html#20131017>

[02] 事業報告

■ 堺市国際ボランティア通訳研修開催 (OFIX共催事業)

堺市文化観光局国際部国際

課

9月8日（日）、OFIXと共催で、堺市立国際交流プラザにおいて、堺市国際ボランティア制度の通訳者を対象に通訳研修を開催しました。通訳者としての心構え及び通訳スキルについて理解を深め、今後の活動に役立てていただき、地域に暮らす外国人が安心して日常生活を過ごせるまちづくりを推進することを目的に実施しました。

講師には、公益財団法人兵庫県国際交流協会の外国人県民インフォメーションセンターに勤務しておられる村松紀子さんをお迎えしました。第1部ではパワーポイントを使用しての講義で、とてもテンポよく進められ、ポイントも分かりやすく、34人の受講者の集中力を途切れさせないような講義でした。講師の失敗談を聞いて、自分自身にも起こりそうだと考えさせられたり、ケーススタディーでは活発な意見が出されました。

第2部では、英語（5グループ）、中国語（2グループ）、韓国・朝鮮語（1グループ）のそれぞれのグループでロールプレイを行いました。堺市の実情に沿った内容のシナリオを作成していただいたので実践で役立ちそうな練習ができました。

OFIXから派遣していただいたボランティアの皆様、研修にご協力いただきどうもありがとうございました。

■ 国際理解教育：枚方市立中宮小学校を訪問

OFIXでは、大阪の国際化の促進を目的として、国際理解教育事業を実施しています。この事業では、国際理解教育サポーターを大阪府内の小・中学校や高校に派遣して、母国の歴史や文化等を子どもたちに教えています。

10月9日に国際理解教育事業の活動として、スリランカ、中国、フランス、フィリピンの4カ国から6人の国際理解教育サポーターが枚方市立中宮小学校を訪問しました。それぞれのサポーターは1年生から6年生まで各学年のクラスに分かれて、それぞれ約50名の元気な子どもたちに歓迎されました。母国の風土や文化の紹介のほか、歴史、教育事情、クイズ、歌、ゲーム等、それぞれの学年に合った内容を発表して、子どもたちと交流しました。

1年生と3年生を任された2人のフランスのサポーターは母国の子どもの歌を、小学2年生を任されたフィリピンのサポーターは母国の子どものゲームを、4年生と5年生を任された2人の中国のサポーターは母国の歌と、日本語と中国語の違いを、そして、6年生を任されたスリランカのサポーターは母国の歴史と衣装を紹介しました。子どもたちは興味深々にサポーターの話聞き、発表が終わった後は、たくさん質問をしてきました。

子どもたちにとっては、様々な国について多くのことを学び、外国の人と遊び、楽しい時間を過ごすことができたとても有意義な時間であったと思います。

【03】留学生特集

■ 外国人留学生を取り巻く環境の変化について

大阪府立大学 国際交流センター長 寺迫 正廣

中国50万人。韓国20万人。この数字は両国が今後、受け入れを目指す外国人留学生数を示す。出所は文科省が2013年夏に発表した「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略（中間まとめ）」である。この中間まとめは、世界が外国の優秀な留学生を受け入れるためにしのぎを削っている状況をふまえ、日本も優秀な留学生を獲得する戦略を打ち出さねばならないと書いている。中国が孔子学院（104国、826拠点）を経由して中国本土に50万人を呼び込む計画を有し、韓国も在外韓国語教育院（14国38施設）を利用した20万人受入れ施策を発表したことで、危機感を抱いたことが窺える。

日本政府は2008年に外国人留学生受入れ30万人計画を発表し、2020年までの実現を目指している。だが、文科省の姿勢はそれに向けて一丸となって動いているように見えない。その証拠に留学生数はこのところ減少傾向にある。

わが国の留学生受入れ拠点となる30大学を選定する「グローバル30」は1年目に採択された13大学で止まり、2年目以降の募集は打ち切られたままであり、逆に「内向き志向」がメディアを賑わすと、日本人学生の海外派遣支援にシフトしてみたりする。

ショートステイ・ショートビジット事業がその象徴だが、それも2年で打ち切りとなった。

また、2010年、日本学生支援機構（JASSO）が運営する東京国際交流館を仕分け対象とした時、文科省-JASSOは明確な反論をすることなく、この国費留学生用宿舎の廃館を決めた。入寮者に対して一定の期限までに寮を明け渡すように通告したという。

その後、存続の方向に向けて再調整が進められていると聞いているが、文科省-JASSOの受入れ方針と施策の一貫性のなさに危惧を覚えざるを得ない。「中間まとめ」には「留学コーディネーター」という新たな職種が登場し、優秀な留学生を集めるとあるが、この点も不可解と言わざるを得ない。余計なところで金を投入するのではなく、国費留学生数の枠そのものを増やし宿舎も保証すれば、質のいい留学生の獲得は可能ではないか。ここ数年間、国費留学生数は少しも伸びず、1万人を下回ったままである。このような状況を見ると、留学生をめぐる環境は良くなっているとはとても言い難い。

国の施策が右往左往するなかで、大阪府は2年前から、独自の国際化戦略を策定し、外国人留学生受入れについて、OFIXと共同して「入学から就職まで」をキーワードに海外留学プロモーション（ジャカルタ、ホーチミン）を開始した。

行政、教育機関、企業の三者が手を組んでALL OSAKAで質の高い留学生の呼び込みを目指す、全国でも珍しい取組であり、注目に値する。現在、2年目のプロモーションが進行中で、両都市における大阪の知名度は一定高まってきたと言える。今後は、大阪に来たいと望む高校生や大学生の来阪をどうやって実現するか。そのシステムづくりにかかっている。

日本の大阪が東京に並ぶ重要地としての役割を果たし、さらにダイナミックな発展を目指すために、優秀な留学生の力は不可欠であるとする考え方は、少子化と高齢化が急速に進むこれからのわが国の真実を言い当てている。このことを府民に十分に説明することによって、たとえば「大阪府奨学生」のようなものを創設できれば、大阪には教育機関も多く、企業数も多く、選択肢が豊富であること、また住民のホスピタリティも他府県に負けないことから、外国人高校生や大学生にとって、魅力的な留学先となること請け合いである。大阪が独自の制度をつくり、率先して実際の受け入れを実現することを期待したい。

【04】投稿コーナー

■ 多文化の国トルコ

NPO法人大阪トルコ日本協会 副理事長 アイテキ・チフチ

メルハバ！お元気ですか？
トルコ人はとても陽気で話すことが大好きです。大阪トルコ日本協会には大阪在住のトルコ人と日本人が集まり、様々なイベントを開催しています。そもそもトルコと日本の関係は約120年前、オスマン朝の軍艦エルトゥール号が海上で遭難し、和歌山の人々が懸命に助けたことがきっかけとなり始まりました。その後も、災害時や困難時の相互援助によって実現された協力関係は本日まで続いています。
両国は地理的にはとても離れていますが、文化的にはとても近いところがあります。例えば、トルコで話されるトルコ語の文法は日本語と同じですし、日本とほぼ同緯度なので四季がありラフティングやスキー等のスポーツも盛んに行われています。
次に歴史と文化をご紹介します。トルコは紀元前から様々な文明や帝国が栄えては移り変わり、たくさんの文化、遺跡、宗教、習慣が混在して発展してきました。一番大きな帝国はオスマン帝国で、現在の4倍もの面積を有していました。歴史深い国トルコではどこへ行っても遺跡があり、イスタンブール、パムッカレ、カッパドキア、エフェソスは観光地としてとても有名です。なかでも日本人が最も訪れるのはイスタンブールとカッパドキアです。イスタンブールにはアヤソフィアというモスクがあり、モスクのなかにはキリスト教とイスラム教の装飾やアッラーの印(しるし)が一緒に飾られています。2大宗教が同じ建物の中に存在することはアヤソフィアが初めてです。上の写真はイスタンブールのブルーモスクです。ブルーモスクの由来はモスクに使われているタイルがブルーだからです。
下の写真は中央アナトリア地域にあるカッパドキアです。カッパドキアには火山の噴火によってできた茸岩とキリスト教徒が迫害から逃れるために住んでいたカイマクル地下都市があります。ここでは、自然の作り出した景観美と宗教間の歴史を体感することができます。トルコではどこの遺跡へ行っても猫がいます。
トルコで有名なワン猫 (Van kedisi) をご紹介しましょう。ワン猫は真っ白な毛並みとオッドアイと言われる左右の瞳の色が異なる特徴があります。この猫は大変賢く15個もの言葉を覚えることができ、猫には珍しく泳ぐことが大好きです。また、トルコはチューリップの原産国なので、トルコ雑貨にはチューリップの模様が描かれたものがたくさんあります。トルコ航空直行便なら最短11時間半で行くことができますので、トルコに行く時にはトルコ雑貨もお見逃しなく。
最後に、トルコと言えば料理です。世界三大料理とも言われています。トルコはヨーロッパとアジアを結ぶ好立地のため、様々な食材がトルコに集まり、ナス料理だけでも400種類もあります。たくさんの味付けがあるので、皆さんに合う味が絶対見つかります。トルコまで行けないという人も、大阪にトルコ料理店があるので一度足を運んでみてください。

☆☆

当協会では、文化講座、講演会、交流会などの様々なイベントを通してトルコ人に日本文化の紹介を、日本人にトルコ文化の紹介をすることによって多文化共生に努めています。ぜひお気軽にお越しください。一緒にトルコ紅茶を飲みましょう。

所在地：大阪市西区南堀江1-1-16 四ツ橋ビル3F
TEL：06-6556-9505 FAX：06-6556-9506
月から土曜日 10：00から19：00 日曜・祝日休み

【05】 新人紹介

■ はじめまして

企画推進課 谷川 真理子

みなさま、初めまして！8月からOFIXの非常勤職員となりました谷川真理子と申します。多言語支援制度の構築に関する業務を担当しています。

私は、2010年から約2年間、家族の仕事の関係で、中国・上海に住んでいました。2010年は折しも上海万博開催の年。私もご縁があり上海万博関連のお仕事をする機会に恵まれました。日本人の感覚からすればフレキシブルすぎる国民性や文化と戦いつつ、中国人とうまく付き合うための「4つのあ」、すなわち「慌てず」「焦らず」「あきらめず」「あてにせず」の日々でした。たいへんな事もたくさんありましたが、その分充実感があり、本当に中身の濃い貴重な体験ができました。

今後は、自分が外国人として異文化の中で生活してきた経験を活かして、大阪で暮らす外国人の方々やその周囲の方々とともに成長していけるような仕事をしていきたいと思っています。そして、世界中の国々や人々について、いろいろなことを学んでみなさまと共有しながら、楽しんでやっていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひします。

【06】大阪府外国人情報コーナー

■ 相談員ネットワーク会議

大阪府内の外国人向け行政情報の提供、相談を行う窓口の担当者間で、情報交換、知識の共有を図るとともに、連携を行うため、平成22年度から年に2から3回ネットワーク会議を開催しています。

今年度第1回目は10月2日に実施し、中野辰宏行政書士を講師にお招きし入管法改正後の傾向に関してお話を伺うとともに意見交換会を行いました。そのなかで「日本人配偶者等」などの身分関係で在留している外国人の方が、別居や離婚で婚姻の実態がない期間が6か月以上経過後の「在留資格取消制度」運用について質問がありました。入管法第22条の4第1項第6号には「取り消しすることができる」とありますが、自動的に取り消されるわけではなく、外国人本人に対して意見聴取の手続きがとられ、意見陳述の機会が与えられます。状況に応じて「定住者」など他の在留資格への変更などの可能性もあるとのことでした。

新しい制度に関する良い勉強の場となりました。

【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間：9時から5時30分（月曜から金曜）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、
スペイン語、タイ語、フィリピン語、
ベトナム語、日本語

【07】OFIX国際交流員レポート

■ フィリピンの文化祭

皆さん、こんにちは。OFIX国際交流員のアルビンです。先日、仕事で2人のフィリピン人と一緒に英語を使って高校生と交流するために、ある学校を訪問しました。そして、文化祭のことについて話しました。今は文化祭が多い時期なので、今日はフィリピンの学校文化祭について話します。フィリピンの高校でも文化祭があります。しかし、文化祭でやっていることはちょっと違います。

日本ではクラスごとで何かを準備しますが、フィリピンではやりたい人たちがやればいいのです。クラブ活動的な感じですが。日本の文化祭とフィリピンの文化祭のもう一つの相違点は食べ物売りのブースが少ないことです。代わりに射的とか金魚すくいのような皆が楽しめるブースがたくさんあります。3つのブースを紹介します。

- 1) Kissingブース：名前のとおりキスするブース。お金を払って、ブースの人とキスするのではなく、キスしたい相手を指名して、ブースの人がその人を捕まえて、キスをさせる・・・と言ってもキスするのは“ほっぺ”だけです。それでも、好きな人だったら、ドキドキするでしょう。
- 2) Jailブース：牢屋です。校内放送で一定の時間内に捕まえる人の特徴を放送して（例えば、青いシャツを着ている人、短パンをはいている女性等）その人たちを追いかけて捕まえます。捕まった人はお金を払うか、牢屋の中で1時間ぐらいいます。お金を払うと言っても日本の100円から300円くらいの金額です。
- 3) Water Dunkブース：このブースは今でもやっているかどうかわかりませんが、ブースには水が入った大きいタンクはあって、タンクの上に椅子と的があります。想像できるでしょうか。お金を払って、人を指名します。ブースの人はその人を探して、タンクの上の椅子に座らせ、依頼した人はボールで的を当ててみます。当たったら、座っている人は水がいっぱいのタンクの中に落ちます。このブースのバリエーションとして、人を指名したら、ブースの人は水が入っているポリ袋を持って、指名された人を発見したら、水の入ったポリ袋をその人に投げつけます。このバリエーションは今でもやっているようです。

こんなことをやって、皆は怒らないのかって？ これは文化祭だから、学校に入った時点でそういうことが起こることを承知しているから、今まで喧嘩になったことを見たことはありません。逃げ回っていることはありましたが・・・最後にもう一つ違うことは乗り物を設置する学校もあります。観覧車とか、ミニ絶叫マシンとか、メリーゴーラウンドとかが定番です。私の高校でもやっていました。今でも幾つかの学校でやっているようです。

